

くっちみんさい。

よし か び ぎょく
吉 賀 美 玉



あんきな米づくり

あんきな米づくり「吉賀美玉」

1. 吉賀町（よしかちょう）について …… P.1
2. 吉賀美玉とは …… P.2～5
3. 出荷数量・作付面積の推移 …… P.6
4. 産地交流会 …… P.7
5. 美味しまね団体認証の取得にむけて …… P.8
6. 今後の取組 …… P.9



吉賀町【よしかちょう】

島根県の西南端の町で、山口県、広島県の県境に位置し、町総面積は336.29km²で山林92%、農地2.3%となっており、町総面積は県全土の5%にあたります。気候は典型的な山陰型気候で、降雨も比較的多く冬季間の積雪も比較的多いです。また、吉賀町を水源とする「高津川」は清流・日本一に輝いたこともあり、支流を含めダムが一切ない貴重な川です。

人口は昭和35年1960年をピークに減少が進んでおり、少子高齢化により農林業、集落の担い手の確保が困難な状況です。

農業については、耕地面積が約839ha（2020年）で、総農家数の約8割が兼業農家、自給的農家であり、販売農家についても農産物の販売金額100万円未満が7割を占め、零細で典型的な山間地農業を営んでいます。基幹的農業従事者の65歳以上の割合は88%に達しています。

経営耕地規模3ha未満の経営体数は2010年の640経営体から2020年には428経営体と33%減少していますが、経営耕地規模が3ha以上の経営体への農地集積は2010年の23%から2020年は39%に拡大し、農業の構造変化が進んでいることが分かります。

水稻が基幹作物であり、吉賀町としても米産地としてのブランド力の向上により農家経営の安定を図っています。

参考…【吉賀町過疎地域自立促進計画】



吉賀美玉とは①

2010年に、吉賀町産米に強い関心を持っていただいた大阪米卸業者様(1社)を販売先として、地域(吉賀町)の米として関西圏での販売を開始。

その後、販売先と産地との繋がりが強くなる中で、販売先からの要望もあり、2015年に、より一層のブランド化を図るとともに、生産者の所得向上を目的としてより付加価値の高い特別栽培米として栽培を開始。

組織

- 2015年組織設立
- 吉賀美玉の生産全戸が組織会員
- 会員戸数…13戸 (2024年産)
- 作付け面積…16ha (2024年産)

品種・栽培

- 特別栽培米 コシヒカリ
- 食味・品質向上を目的とした施肥設計
- 特別栽培米 つや姫
(2025年産より作付予定)

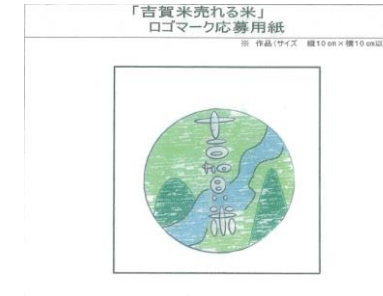
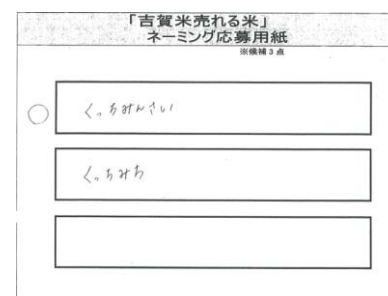
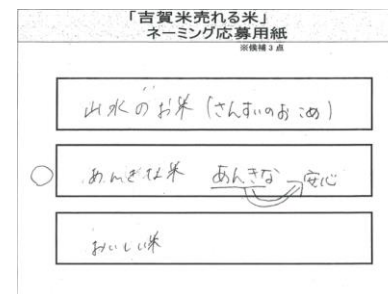
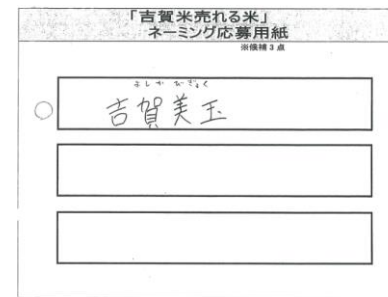
吉賀美玉とは② ログマークとネーミング

産地間競争が激化するなかで、吉賀町産も他産地との区分や差別化が必要であることと、米小売店からの強い要望があったことからログマークとネーミングを作成しブランド化を図ることに決めました。

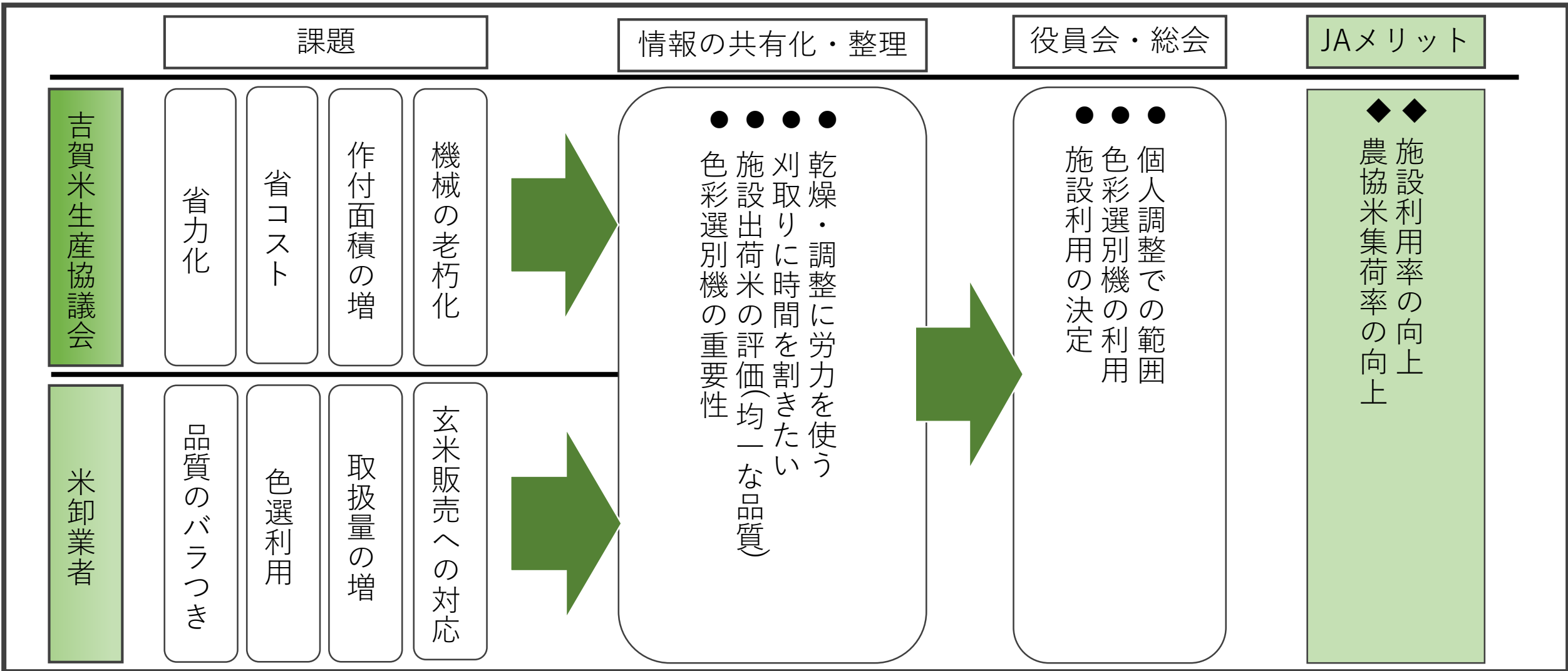
ログマークとネーミングを作成するにあたり、地元吉賀町の高校の生徒のアイデアを取り入れ、ログマークとネーミングを作成して協議会やJAの活動で使用されています。販促用グッズや米袋に貼るシールなどにも使用され、これらは米卸業者や米小売店でも使用されています。

販促用グッズの選定は協議会を主としていますが、米卸業者と米小売店での使い易さなども聞取りながら販促用グッズの作成をしています。

「あんきな」とは「安心な」という意味です。

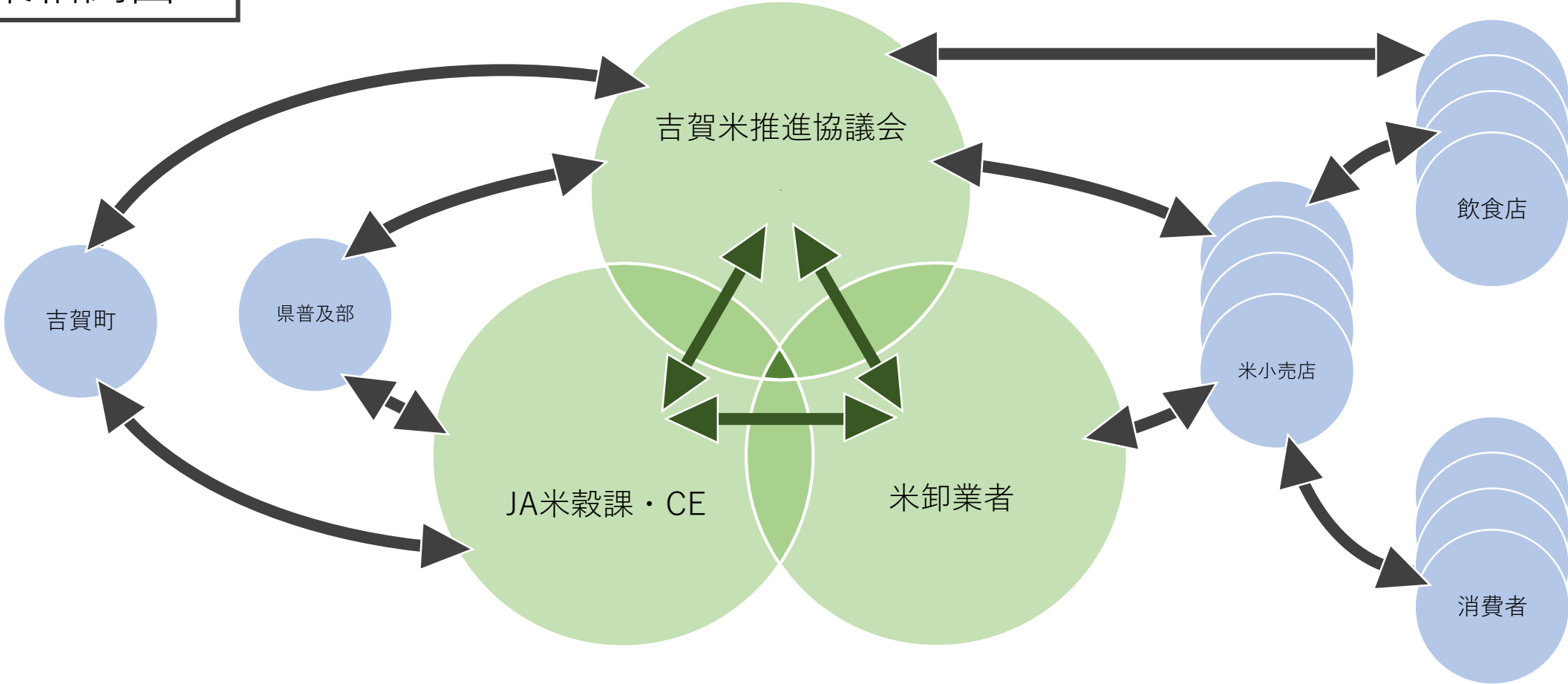


吉賀美玉とは③ カントリーエレベーターの利用



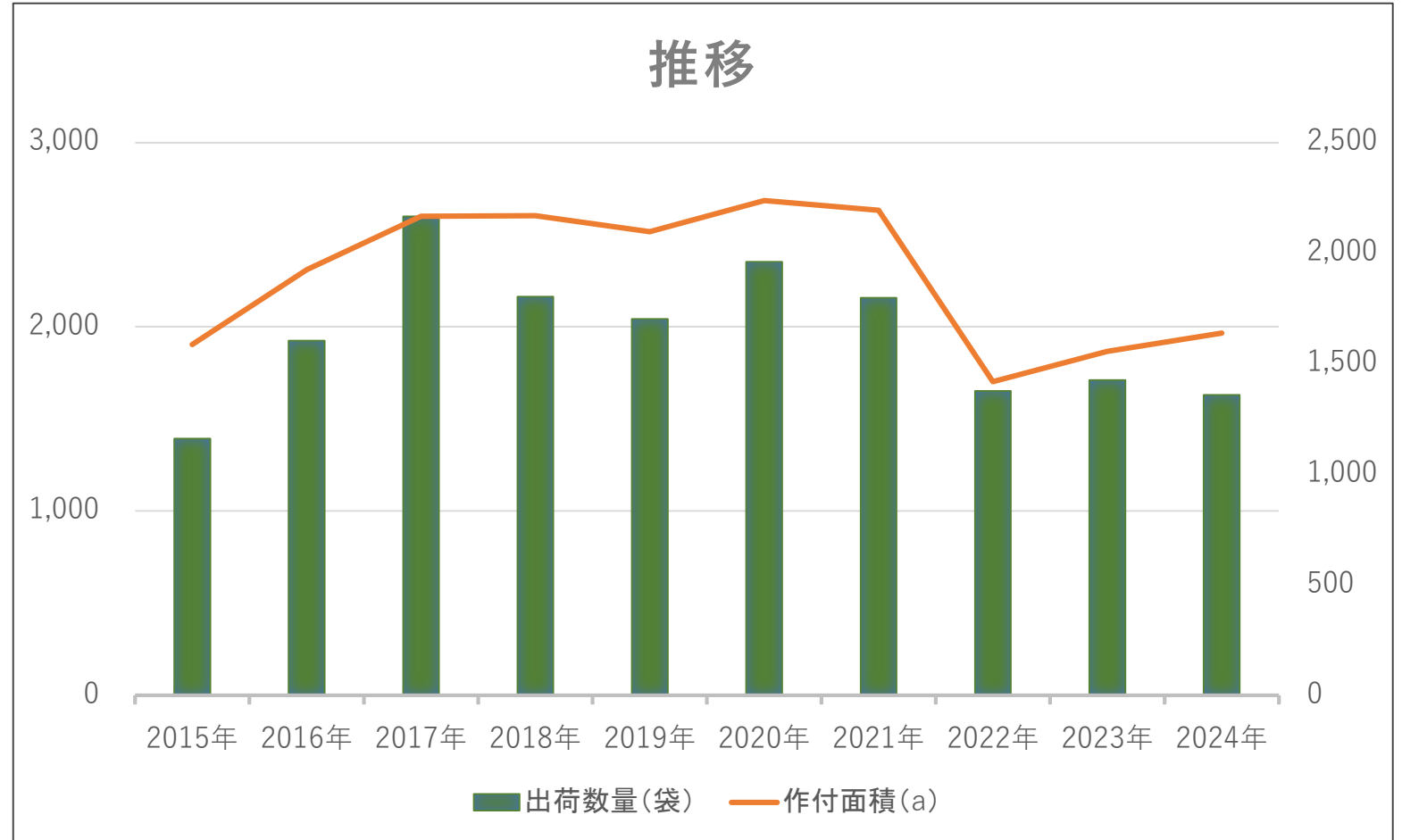
吉賀美玉とは④

事業相関図



出荷数量・作付面積の推移

右図は吉賀米推進協議会設立時からの出荷数量と作付面積の推移になります。
2024年は約1,600袋を出荷しています。



産地交流会の実施

産地交流会を開催し、吉賀美玉取扱販売店や取扱飲食店の方々に御来町頂きました。
参加者は米小売店、取扱飲食店、協議会員、県普及部、JA（地区本部長、米穀課長、担当者）
吉賀美玉栽培圃場の視察、刈取り体験、意見交換の後は吉賀町の名所を巡って頂きました。

稲刈り体験の様子

高津川水源地

産地交流会を実施した事で、プロダクトアウトの意識が強くあった吉賀美玉生産者の皆さんも、
『求められているお米』を栽培する意欲が高まりました。

美味しまね団体認証の取得にむけて

【取組動機】

- ・消費者の食の安全に対する意識に応えたい。
- ・コストを削減したい。
- ・米卸業者や米小売店の販売活動の一翼を担いたい。
- ・会員（生産者）の手取りを増やしたい。

【総会での承認】

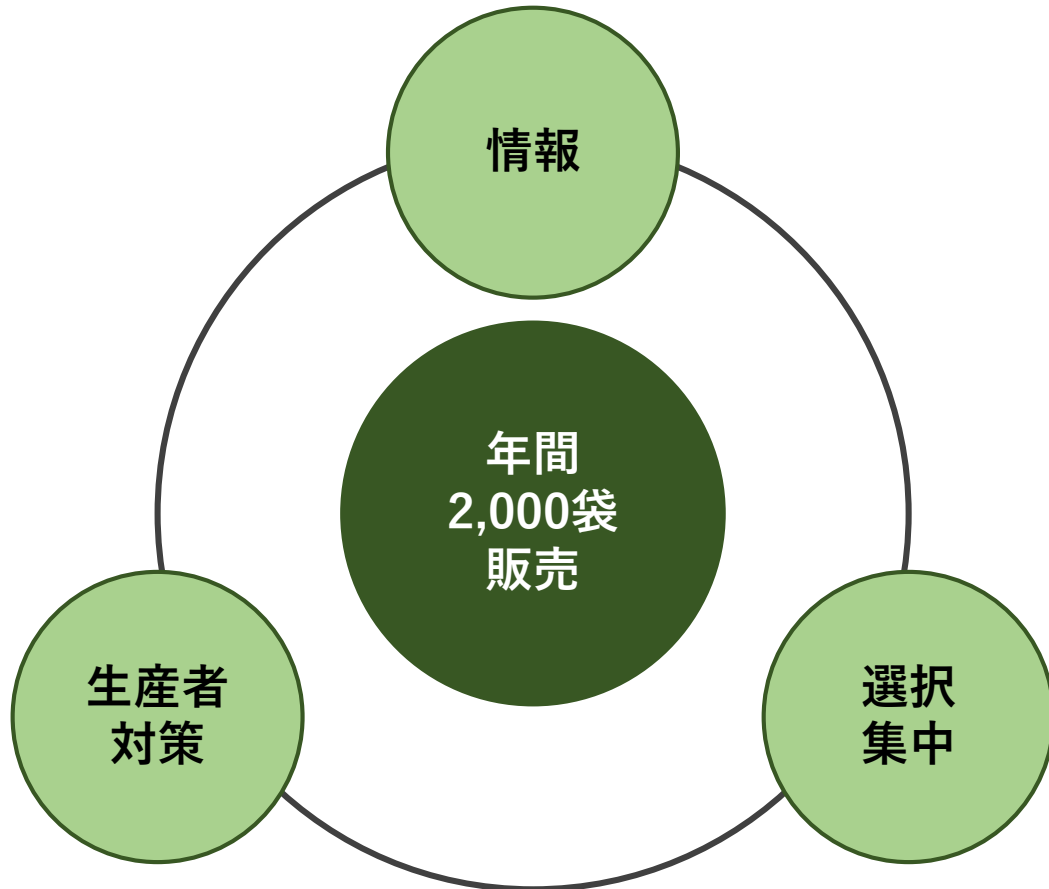
- ・経営方針を掲げ、会として認証に向けての意思を統一

【勉強会の開催】

- ・水稻栽培に関する勉強会と併せて、美味しまね団体認証に向けての勉強会を開催。島根県GAP担当の普及員を迎え、生産者が取組むべき事柄や各報告様式にまでの意見の交換を行った。



今後の取組



1.生産者対策

- 高齢化対策、新規生産者を増やす
- 省力・低コスト化を進める
- 美味しまね団体認証の取得
(2026年産米での取得を目途)

2.選択と集中

- 吉賀美玉のマーケットを関西圏に絞る
- 消費者属性の選択とその属性ニーズに合う米づくり

3.情報入手と情報発信

- マーケット情報の入手
- 情報発信ツールの活用